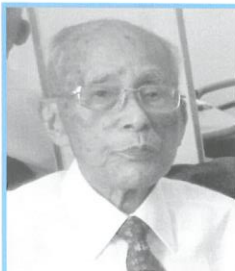


無縫 No.76

発行 一般財団法人 田澤記念館
住所 佐賀県鹿島市大字高津原434番地
発行責任者 平野重徳・小池幸照
発行所 鹿島印刷株式会社
発行日 2019年1月21日



新春のお慶びとお礼・感謝を申し上げます

田澤記念館 会長 平野重徳

明けましておめでとうございます。

昨年は「明治維新150年記念田澤義鋪顕彰事業」を開催しましたところ、多くの方々のご臨席を賜り、盛大且つ意義ある大会となりましたこと、この上ない喜びでございました。

「道の国日本」を掲げ、生涯を「青年教育」と「人としての正しい精神」、さらには「平和国家建設」を、自らの行動により訴え続けた先生の広大な意志は、今こそ謙虚に学び引き継ぐべき時代であると痛感しております。

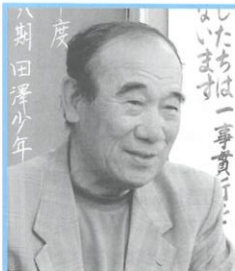
国家の情勢を見ますに、外国人労働者の受け入れを拡大する「入管難民法改正案」や「日ソ共同宣言」を基礎とした「歯舞・色丹の2島返還」等課題が山積しています。加えて、日本人の「規範意識」の希薄さが、青少年だけでなく成人においても顕著に表れ、昔では考えられない様々な出来事が頻発していることは周知のとおりでございます。

「虚空に矢を射る」「一事貫行」「道の国日本の完成」「一人一研究」など、今日の社会が最も必要とする田澤精神をしっかりと認識し、更に記念館としての任務を遂行すべく頑張っております。

しかしながら、大変心苦しいことではありますが、昭和59年に建設されて以来皆様方からのご支援を賜りながら活動を行ってまいりました、この田澤記念館の運営維持が無縫でもお伝え申し上げてきましたとおり遂に困難になりました。それで平成30年11月の理事会で「田澤記念館の一般財団法人は解散し、「田澤記念館を鹿島市へ寄贈する」旨が決定され、評議員会で承認されました。

今後のことについては鹿島市との話し合いを随時行っていく予定です。

ただ、田澤義鋪先生の顕彰活動は変わらず行っていく所存ですので、今後とも御協力の程よろしくお願いいたします。



田澤記念館の動向?

田澤記念館 代表理事 小池幸照

昨年の「明治維新150年記念田澤義鋪顕彰事業」には400名を超える参加者があり、田澤先生を思う人々の熱意が感じられました。御協力頂いた皆様に心からお礼を申し上げます。

年始めではございますが、無縫にて以前から掲載しておりました田澤記念館の財政逼迫の件につきまして昨年4月からの理事会で検討を重ねて参りました。

結論から話しますと「田澤記念館の建物を鹿島市に寄贈をして、一般財団法人を解散する」という事になりました。11月の理事会で議題「田澤記念館の建物を鹿島市に寄贈をして、一般財団法人を解散する」は紛糾することなくすんなりと可決され、評議員会でも承認されました。

代表理事といたしましては大変残念に思うと共に、憤りと自分の力不足を痛感しているところでございます。

同月鹿島市長にその旨を伝え、鹿島市と話し合いを随時行うことになりました。

ただ、田澤義鋪先生の顕彰事業(ユースカレッジ、少年クラブ活動、出前授業等)は引き続き行っていく所存ですので、田澤精神の炎を燃やし続けるためにも、今後とも御協力の程よろしくお願いいたします。

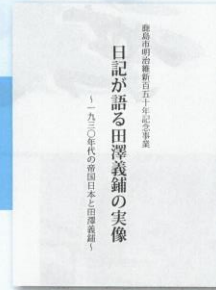
田澤義鋪先生の日記が本になる

鹿島市明治維新150年記念事業

「日記が語る田澤義鋪の実像」

～1930年代の帝国日本と田澤義鋪～

田澤義鋪先生の日記が本になる。佐賀県立図書館が所蔵する資料の中にあつた田澤先生の日記を鹿島市明治維新150年記念事業の取組で鹿島市図書館の高橋学芸委員が本にすることが決定し、まもなく完成する予定である。高橋学芸員によると、「田澤が危機に瀕していた立憲政治を立て直すために、国民への政治教育運動(選挙粛正運動)を行い、明治維新の真の完成を目指していた時期と重なります。ひたむきに政治教育の重要性を訴え続けた田澤は、『虚空を射る』という言葉を残しています。また、昭和天皇へのご進講、2・26事件、廣田弘毅内閣への入閣辞退、大日本連合青年団理事長辞任、選挙粛正運動など『この人を見よ』でも取り上げられた事蹟が田澤の視点から、田澤の言葉で記されています。この中でも、最も臨場感をもって記されているのが昭和11年の2・26事件です。」



田澤義鋪の下書き寄贈

11月22日に加藤真一様から突然ゆうパックが届いた。

内容は

私は、故加藤善徳の長男です。遺品の整理過程で、田澤義鋪先生の伝記『この人を見よ』の原稿が出てまいりました。

(中略)

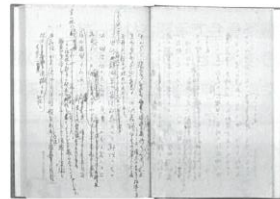
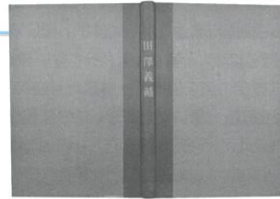
多分、亡父は、福島から上京後、田澤先生の書生を務めておりましたし、下村湖人先生の弟子だった関係から資料収集や、原稿の下書きなどでお手伝いしていた模様です。

(中略)

ぶしつけとは存じましたが、現物の原稿を同封にて送らせて頂きます。

とあり、『この人を見よ』p4に下村湖人が「本書の執筆を引受けるとき、私は右手右足に痲痺の関節炎があつて、資料の蒐集に出歩くことは勿論、メモする能力もなかった。それゆえ私は、記念会に対し、「加藤善徳君の援助があるならば」という条件をいれてもらって、承諾したのであつた。したがって本書の資料は、私自身で集めたものは殆どなく、すべては加藤君の非常に勤勉な努力によって得たものである。そしてその多くは、私に提供する前に、内容もよく整理し、文章も相当にねられてあつた。私はただこれに適当な意見を加え、文体を私流に統一するだけであつた。本書中に挿入した幾多のエピソードの如きは、加藤君の書いたままで採用したものも少なくない。その意味で本書は、加藤君と私との共著というのがむしろ適当である。私は加藤君に幾回かこのことを提案したのであるが、謙虚な同君は峻拒して受けられないまま、私の独力のような形となつていたのである。改題公刊を機会に、以上の経緯を明らかにして、加藤君に心から謝意を表したい。後年、田澤義鋪詳伝を企画される人があるならば、私はそのもっとも有力なる援助者として、加藤君を推薦するものである。」

この原稿は手書きで幾つも加除修正がなされており、大変興味深い資料のように思われる。原稿用紙が田澤記念会のが殆どで、下村湖人(1枚)と生活協会(4枚)とでなつている。「この人を見よ」で没になつた部分が非常に興味深い。ただ、紙質が悪いのでまずは写真を撮り画像データとして保存をと考えている。



* ご寄附ありがとうございました。 *

○エスティ工業(株)様 ○鹿島市民チャリティゴルフ様 ○祐徳自動車(株)様 ○たなじぶ会様 ○飯盛直喜様
○山下義則様 ○竹下宏紀様 ○小池幸照様